

二〇二〇年八月七日

ウイルス禍のことも告げつつ墓洗ふ
くぐもれる土鳩の声や昼寝覚
良形の松を透かせて軒すだれ
水遣りて裾吹く風や今朝の秋

二〇二〇年八月六日

とんばうが先導すなる車椅子
木の洞に蟻の道あり原爆忌
匂ひ立つドリップコーヒー今朝の秋
コロナ禍に故郷遠き盆の空
草むしり足元暮れてしまふまで

二〇二〇年八月五日

鎧戸を射抜くがとき大西日
沢蟹の横切るを待つ散歩道
湖望む墓苑の丘の風涼し
工事場の足場から降る蝉時雨
突堤の囲む一湾月涼し
釣り竿の先で輪をかく蜻蛉かな

二〇二〇年八月四日

蝉時雨苔むす姫の供養塔
白玉の次々浮いて急かしけり
籐椅子や文豪そこに在はすかに
農協の玄関ドカと大南瓜
雲の峰大海原を独り占め
岬まで潮の道あり夜光虫

菜々

かかし

菜々

はく子

せいじ

なつき

やよい

智恵子

みきお

せいじ

隆松

隆松

もとこ

素秀

なつき

なつき

たか子

たか子

やよい

智恵子

素秀

二〇二〇年八月三日

石一つケルンに重ね縦走す
白南風に遙か富士見ゆ観覧車
干梅の天地返しや笹の中

二〇二〇年八月二日

梅雨明けや新規レシピに挑戦す
竹かごに野の花挿して卓涼し
星ひとつ寄り添ふごとく月涼し
礼拝の前の静寂蝉しぐれ
干されたる漁網の臭ふ浜大暑
梅雨明や家中の窓全開す

二〇二〇年八月一日

瞬く間山河かき消す大夕立
鳴き終はるときのトレモロ蝉涼し
庭師らの地下足袋揃へ三尺寝

やよい

智恵子

ぽんこ

明日香

はく子

満天

せいじ

宏虎

菜々

はく子

せいじ

たか子

毎日句会みのる選・二〇二〇年八月九日